

令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名	秦野市立南が丘中学校
-----	------------

1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) 国語科については、助動詞の働きを理解し、目的に応じて適切な表現を選択することができています。行書の特徴に関して、読みやすい書き方をするための漢字のバランスの整え方や、漢字と仮名が調和した書き方について理解できています。	(1) 国語科については、記述式の設問に対し、苦手意識が強く、無回答が目立ちます。その記述式の結果から話すこと・聞くことの領域で、聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することに課題が見られます。また、読むことの領域で場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することにも課題が見られます。
(2) 数学科については、「三角形の合同条件を書く」「連立方程式を解く」「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る」など概ねよく理解できています。	(2) 数学科については、「数と式」「関数」の領域にやや課題が見られ、関係する領域の基本的な知識・技能の定着を図る必要があります。また、考えを表現したり証明したりすることについても課題が見られることから、特に「データ活用」の学習場面で、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られます。
(3) 生徒質問紙については、朝食を摂る習慣や、起床・就寝時間などの生活リズムについて、規則正しい生活ができている生徒が多くいます。また、「人の役に立つ人間になりたい」と考える生徒が多く見られます。	(3) 生徒質問紙については、「地域の大人との交流」「地域の行事への参加」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」について課題が見られます。

2 昨年度の取組の分析と考察

(1) 国語科については、自分の考えを表現する活動をグループワークによって進める予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、効果的に行うことができませんでした。そのため、学習端末機を用いて、授業サポートアプリケーションや多人数が同時に書き込むことのできるソフトウェアをコミュニケーションツールとして活用するといった工夫を行いました。
(2) 数学科については、式で表現したり考えたことを言葉で表す活動を多く取り入れる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、グループワークを思うように行うことができませんでした。また、反復練習の機会を増やして既習事項の知識定着を図りましたが、今後もさらに拡充する必要があります。
(3) 生徒質問紙については、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のために制限された生活が続く中で、学校祭を無観客で開催するなど生徒活動に取り組みましたが、地域の行事やボランティア活動への参加は著しく制限を受け、思うような取り組みはできませんでした。そのため、生徒が地域社会について考える機会が減ったと思われるのですが、その反面、扶助意識の表れが見えるなど社会への関心が高まる傾向が見られます。

3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

(1) 国語科については、「書く」場面や「話す」場面において、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに取り組んでいきます。
(2) 数学科については、2人組や4人組の活動を多く取り入れる中で「認めてもらった」「分かってもらえた」「できた」という経験を積ませて、生徒の自己肯定感を高める取り組みを続けていきます。そして、自己肯定感を高める取り組みを続けることが、粘り強く学習に取り組む姿勢を育てることに繋がると考えます。また、引き続き既習の学習内容の定着を図る機会を計画的に持つよう努めていきます。
(3) 生徒質問紙については、今後も生徒の主体的な活動を促しつつ、達成感や充実感を味わわせる生徒活動場面を設定していきます。また、地域社会の活性化につなげるためにも、地域と交流を持つ場面をいかに制限された生活の中で設定していくかが課題です。

4 家庭・地域の方へのメッセージ

南が丘中学校の生徒は、制限のある生活の下でも、学習や部活動に一生懸命に取り組んでいます。また、今年度は保護者のみなさまのご協力によって翔丘祭での保護者参観が実現できました。今後も家庭、地域、学校が協力して、子どもたちの成長を見守っていきたいと思います。よろしくお願いたします。
--